

道関 京子

山口福祉文化大学 教授

高齢者の言語生活を維持・向上するためのリズムカル運動の開発

高齢者のコミュニケーションQOLへの確実な貢献（効果）と継続可能性をめざして、リズムカル運動を研究し開発した。本運動の特徴は、利用者本人の自己受容感覚を基盤にしたコミュニケーション運動という点である。具体的には、リズム活用、代償運動の防止、母音の十分な発声、身体運動と一緒に発話運動、話しことばのイメージから陳述表現、ことばの低周波数帯域の強調などである。開発したリズムカル運動をCD録音し効果を確認したところ、短期間ながらコミュニケーション能力すべての観察項目で改善が低下を上回った。その中でも著しく改善が示されたのは、発話の自発性と異常性の印象であった。発話の自発性は36%の人が、異常性の印象では27%の人が改善を示した。2ヶ月という短期間にこれらの成績が示されたことは、本リズムカル運動の可能性が期待できるものと思われた。